

本資料(参考和訳)は、Deloitteが2012年3月30日に実施したウェブキャストの投影資料を有限責任監査法人トーマツが翻訳したものであり、原文と合わせてご利用ください。なお原文との間に差異がある場合には、特段の記述がある場合を除き原文が優先されます。

契約の集約と 預り金要素の分解表示

IFRS 4 フェーズ II アップデート

IASB・FASB 合同会議 –2012年3月

Francesco Nagari

2012年3月30日



目次

- 今月の合同会議および単独会議での決定事項のハイライト
- スタッフ提案と審議会の議論の詳細分析
- 今後の日程と次のステップのアップデート

IASB/FASBによる3月21日の合同会議のハイライト

会計単位

- 類似したポートフォリオの定義が、リスク調整と残余／単一マージンについて承認された。スタッフは、共通の目的を確実に達成できるような文言を引き続き検討する。

投資要素－分解表示するための特定方法

- 両審議会は、投資要素を、保険事故の発生にかかわらず支払われる金額として定義することに合意した。
- この概念は表示のみに使用される予定である。

投資要素－包括利益計算書における測定と表示

- IASBは、包括利益の中の保険料総額から投資要素を除外することを決定した。
- FASBは、投票を行う前にフォローアップセッションの開催を求めた。

投資要素－財政状態計算書における表示

- 両審議会は、注記で適切に開示されることを条件に、投資要素を財政状態計算書上で分解表示しないことに合意した。

IASB・FASBそれぞれの単独会議のハイライト

FASB単独会議（3月7日）

裁量権のある有配当性を有する契約の範囲

- FASBは、裁量権のある有配当性を有する金融商品を（保険の基準の）対象外とするスタッフ提案を全員一致で支持し、この領域についてはIASBと見解が分かれることを確認した。

IASB単独会議（3月20日）

OCIの使用可能性（教育セッション）

- 全体的に、OCIによる解決策に対するIASBの支持は見られなかった。
- 特定のシナリオのもとで損失（OCIで認識されたもの）の損益へのリサイクリングの時期を早める損失認識テストも、ほとんど支持されなかった。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2A/81A – 会計単位

背景

会計単位に係る決定事項により影響を受ける項目	会計単位に係る決定事項
<ul style="list-style-type: none">契約の境界線	<ul style="list-style-type: none">ポートフォリオ・レベル（以前に合意済み）
<ul style="list-style-type: none">リスク調整（IASBのみ）	<ul style="list-style-type: none">リスク調整の概念を支えるリスク選好（リスクアペタイト）の中立性に基づき、（複数の）ポートフォリオを跨いで測定する
<ul style="list-style-type: none">不利な契約テスト残余/単一マージンの当初測定残余/単一マージンの事後における解放	このペーパーでの焦点

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2A/81A – 会計単位(続き)

スタッフ提案の要約：

代替案1 (IASBスタッフ)

当初認識時における残余/単一マージンの算定および不利な契約テストの実施に使用する会計単位はポートフォリオとすべきである。ポートフォリオは以下の契約群として定義される：

- 1) 類似のリスクに晒されている (ED同様)、
- 2) 単一のプールとして一体で管理されている (ED同様)、および
- 3) 引き受けたリスクに応じて同様にプライシングされている (新たな規準)

残余/単一マージンの解放に使用する会計単位は規定すべきではない。ただし、それぞれ以下の目的と整合的な方法で実施されることを条件とする。

- (IASB) カバー期間にわたって、サービスが提供される期間 に対して残余マージンを解放する
- (FASB) 保険者がリスクから解放される期間 に対して単一マージンを解放する

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2A/81A – 会計単位(続き)

スタッフ提案の要約：

代替案2（FASBスタッフ）

当初認識時における残余/単一マージンの算定、残余/単一マージンの解放および不利な契約テストの実施に使用する会計単位は、ポートフォリオとすべきである。

保険契約のポートフォリオは、以下の契約群として定義されるべきである：

- 1) 類似のリスクに晒されている（IASBスタッフ提案およびDPと同様）、
- 2) 単一のプールとして一体で管理されている（IASBスタッフ提案およびDPと同様）、
- 3) 引き受けたリスクに応じて同様にプライシングされている（IASBスタッフ提案と同様）、および、
- 4) 類似したデュレーションおよび残余/単一マージン解放の類似した予想パターンを有する（新たな規準）

4番目の規準は契約を集約するレベルに上限を設定するものであり、これにより、残余/単一マージンの事後の解放のために群団やサブ・ポートフォリオを定義する必要性がなくなる。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2A/81A – 会計単位(続き)

審議の内容と決定事項

- 両審議会は、以下の事項について質問した。
 - 1番目から3番目の規準が、より広範な原則の指標といえるかどうか
 - 「一体で管理」が必要な規準かどうか
- 「引き受けたリスクに応じたプライシング」の規準を議論し、この規準をリスクの類似性テストと統合することとした。
- 両審議会は、定義の中で集約のレベルに上限を設けるべきことに合意した。
- 残余/単一マージンの解放を規定するための規準を議論し、両審議会は最終的に異なる見解に至った。(次ページ参照)

次のステップ

IASBとFASBのスタッフは、文言に差異が残る場合であっても共通の目的を確実に達成できるような文言を引き続き検討する。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2A/81A – 会計単位(続き)

IASBの決定事項（9対5で賛成）	FASBの決定事項（全員一致）
<p>保険契約のポートフォリオは、以下の契約群として定義されるべきである。：</p> <p>i. 類似のリスクに晒されており、かつ、引き受けたリスクに応じて同様にプライシングされている、および、</p>	
<p>ii. 単一のプールとして一体で管理されている</p>	<p>ii. 類似したデュレーションおよび単一マージン解放の類似した予想パターンを有する</p>
<p>残余マージンの算定および不利な契約テストの実施に使用する会計単位は、ポートフォリオとすべきである。</p>	
<p>残余マージンの解放に使用する会計単位は規定すべきではない。ただし、残余マージンの解放は、カバー期間にわたって残余マージンを解放するという目的と整合するように、サービスが提供される期間 に対して実施されるべきである。</p>	<p>単一マージンの算定および解放並びに不利な契約テストの実施に使用する会計単位は、ポートフォリオとすべきである。</p>

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2F/81F—投資要素の区分

背景と目的

- ED 及びDPでは、特定の投資要素すなわち明示的な勘定残高をアンバンドルすることが提案されている。
- アンバンドリングに関するフィードバックは、ED及びDPの提案に対して批判的であった。
- 両審議会は、預り金要素が保険料総額の一部として表示されることを懸念し続けている。
- 11月の合同会議で
 - FASBは、明示的な勘定残高をアンバンドルすることに暫定的に同意した。
 - IASBは、アンバンドリングの代わりに分解表示することを選好した（投票は行われていない）。
- スタッフは、投資要素を区分することにより以下の目的を達成することを提案した。
 - a) 包括利益に含まれる保険料総額を算定するための基礎の提供
 - b) 他の金融機関との比較可能性の改善
 - c) 流動性リスクのリスク指標の提供(例えば要求払の金額)

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2G/81G – 保険要素に係る保険料総額の算定

スタッフ提案の要約

1. 投資要素の定義

保険事故が発生するかどうかにかかわらず保険者が保険契約者あるいは保険金受取人に対して支払う義務を負っている金額

2. 包括利益計算書における表示及び測定

保険料総額から、(上記で定義された)投資要素の現在価値を控除する。この金額は、保険契約負債全体の測定と統合的に測定される。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2G/81G – 保険要素に係る保険料総額の算定(続き)

投資要素の定義に関する審議内容

スタッフは4つの代替案を示した。

- A. 区分しない
- B. 明示的な勘定残高のみ区分する(2011年11月の合同会議で定義)
- C. 保険事故が発生するかどうかにかかわらず保険契約者に支払われる金額を区分する
- D. 保険者が保険契約者あるいは保険金受取人に対して返還すると見積もった金額を区分する

FASB

- FASBは、まず、保険要素から区別できる場合に投資要素をアンバンドルし、次に、保険事故が発生するかどうかにかかわらず保険契約者に支払われるべき金額を保険負債と分解して表示するアプローチの導入を提案した。
- これは「代替案C+」と呼ばれた。

定義に関する投票	IASB	FASB
代替案C	9対5で賛成	全員一致

- スタッフは「代替案C+」の実行可能性を評価するため、新しい分析結果を再提示する予定である。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2G/81G – 保険要素に係る保険料総額の決定(続き)

包括利益計算書における表示及び測定に関する審議内容

- 議論では、分解表示(すなわち、保険契約全体を測定した後に投資要素を区分して表示する)よりもアンバンドリング(すなわち、投資要素を別個の契約であるかのように区分して測定する)に対するFASBの強い選好が浮き彫りになったようであった。
- 2つ目の提案に関しては下記の投票結果となった。

測定に関する投票	IASB	FASB
スタッフ提案の承認	全員一致	投票を行わず、この論点を別個の会議でさらに議論することとなった。

- 我々は、FASBが作成する新しいペーパーで、「代替案C+」を新しい会計基準に含めるかどうかに関する解決策が提案されることを期待する。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2H/81H—財政状態計算書の表示

スタッフ提案の要約

- 保険者は、財政状態計算書において、投資要素を保険契約から区分して分解表示することを要求されるべきではない。
- 保険者は以下の事項を注記において開示すべきである。
 - 保険契約負債のうち、包括利益計算書から控除された受取保険料(および支払保険金/給付金)の総額に相当する部分(例. 先のペーパーで定義された投資要素)
 - 要求払の金額

審議内容

- 分解された投資要素の財政状態計算書上の開示に関するIFRSやUS GAAPの金融商品会計基準に基づく測定基礎の使用について検討してこれを却下した後、両審議会はそれらの使用を完全に放棄することに合意した。
- IASB理事とFASB理事の何名かが、その論点自身は明確な答えを示すものではなく、それゆえ様々な利用者の目的に対応するためには開示がより適切であることに言及して審議内容を要約した。

合同会議の詳細—3月21日

ペーパー2H/81H—財政状態計算書上の表示(続き)

結論

	IASB	FASB
スタッフ提案の承認	11対3で賛成	4対3で賛成

次のステップ

- この決定事項を要求事項とすべきかあるいは開示方針の選択とすべきかという論点について、今後の会議で議論される予定である。

FASB単独会議の詳細—3月7日

裁量権のある有配当性を有する(DPF)契約の範囲

背景

- 現在、裁量権のある有配当性を有する契約は、保険リスクが僅少あるいは存在しないため、保険契約ではないとされている。
- IASBは、適用を保険業界に限定した上で、保険契約の会計基準の範囲をこれらの契約にまで広げた。(2月28日のIASB単独会議)
- FASBは、IASBの新しい定義では、保険リスク（出再者かつ再保険契約者である保険者が引き受けたリスクと保有するリスク）を移転しない再保険契約を含んでしまうことに言及した。

スタッフ提案の要約

裁量権のある有配当性を有する投資契約を保険契約基準の範囲外とする。

結論

スタッフ提案は全員一致で承認された。

IASB単独会議の詳細—3月20日

ペーパー2B— 保険負債の変動のOCIでの認識

教育セッション

- IASBスタッフは、保険契約にOCIを使用することの是非を要約した一連のペーパーを提供した。
- さらに彼らは、以下の2つの主要な代替案を示して、OCIによる解決策の計算手法について審議した。
 - 割引率に起因する全ての変動をOCIに含める
 - 金利感応度の高い前提条件（オプション、保証、インフレ、解約率）から生じるキャッシュ・フローに起因する全ての変動をOCIに含める
- ロックインされた割引率の割り戻し、マージンの解放、実績調整、および金利に影響されない前提条件の変化に起因したキャッシュ・フローの変動は、常に純損益で表示される。
 - 代替案Aは、現在ベースの利息費用への調整額を包括利益計算書の中で表示し、差額をOCIで表示する
 - 代替案Bは、ロックインされた割引率による利息費用を直接（損益で）表示し、（現在ベースでの利息費用との）差額をOCIで直接認識する。

IASB単独会議の詳細—3月20日

ペーパー2B— 保険負債の変動のOCIでの認識(続き)

- さらにスタッフは、OCIで認識された損失の損益へのリサイクリングは、「損失認識テスト」により早めるべきことも提案した。
- 損失認識のトリガーは、以下に基づく：
 - $(\text{現在の割引率で割引いた負債} - \text{当初の率で割引いた負債}) > \text{マージン}$
 - $(\text{投資収益率を使用して割引いた負債} - \text{当初の率で割引いた負債}) > \text{マージン}$
 - その他の定性的要因が、保険者が保険負債を履行するために保険者自身の資本を充当することを予想するような状況を示している場合
- 損失認識テストが発動した場合、割引率を再設定しなければならない。
- テストが発動した場合にリサイクルされるべき金額については以下の案がある。
 - OCIで認識されていた損失の全額
 - 該当のトリガーの下で計算された損失額
 - マージンを上回る損失額
 - 上記の組み合わせ(ただし割引率は再設定しない)

IASB会議の詳細—3月20日

ペーパー2B— 保険負債の変動のOCIでの認識(続き)

審議内容

審議会理事は、多くの反対意見を述べた。そのいくつかは既にスタッフが検討したものであった。：

- OCIの使用を取り巻く原則の欠如
- IFRS第9号での提案を検討する必要性
- 包括利益計算書の目的適合性の低下
- 割引率の変動と同様に、金利感応度の高いキャッシュ・フローの変動がOCIに含まれる可能性
- 償却原価で測定される投資を有することから生じる会計上のミスマッチが単にOCIへとシフトするだけである
- オプションや保証は経済的なキャッシュ・フローであるが、損益に全く反映されなくなる可能性がある
- 損失認識テストは、利得がOCIに残存している場合でも、金利の低下による損失を損益に反映させることになる。

全体を通して、OCIによる解決策を使用したいという意向は無かった。

次のステップ

■ 3月から繰り越された軽微な論点 - IASBとFASB

- 会計単位—FASBとIASBのスタッフは、異なる表現を用いることになっても、原則に関するコンバージェンスを確固たるものにする
- 投資要素の分解表示—スタッフは代替案C+についてさらに検討する。これはまず区別できる要素をアンバンドルするものである。
- 財政状態計算書上、投資要素を区分しない—許容か要求か

■ 3月から繰り越された論点 - IASB

- スタッフは、OCIの使用・金融商品会計に関する詳細なペーパーを作成する

■ 3月から繰り越された論点 - FASB

- FASBは、包括利益の表示から除外された投資要素の測定について、別個の会議を開催する

次のステップと今後の日程

- 保険に関する次回の合同会議は4月16日～21日の週と見込まれ、新しい教育セッションがその前週に開催される可能性が高い。
- 審議されるべき残りの主要な論点
 - 残余マージンのアンロック／単一マージンの事後測定
 - 包括利益計算書における保険料の表示
 - 再保険－出再者の会計処理
 - 経過措置と発効日
 - 保険契約を裏付けるために保有される金融資産 – IFRS9号の分類及び測定について再審議
- 次のデュー・プロセス文書の公表は2012年第3四半期－第4四半期に延期(IASB及びFASBの両方とも)
 - 次のIASBのデュー・プロセス文書の位置づけについての決定が待たれる
- 最終基準は2013年末までに公表されるはずである。

コンタクトの詳細

Francesco Nagari

Deloitte Global IFRS Insurance Leader

+44 20 7303 8375

fnagari@deloitte.co.uk

Link to **Deloitte IFRS Insurance materials:**

<http://www.iasplus.com/agenda/insure2.htm>

Insurance Centre of Excellence:

insurancecentreofexc@deloitte.co.uk

